

びわこ成蹊スポーツ大学授業評価アンケートについて

—2009年度授業評価の考察—

*金森雅夫 *柴田俊和 *吉田政幸 *佐々木直基 *藤松典子 *高柳真人

On Lecture Assessment based on the questionnaires, 2009

Masao KANAMORI, Toshikazu SHIBATA, Masayuki YOSHIDA, Naoki SASAKI, Noriko FUJIMATSU, Masato TAKAYANAGI

Abstract

FD (Faculty Development) committee in Biwako Seikei Sport College has published the report of lecture assessment based on the questionnaires answered by the students conducted in 2009. The assessment level was slightly higher than that of the previous report, but some data didn't show the change. The report indicated that there were significant differences in the number of students who attend lectures, the opening time of lecture, and style of lecture such as practical skills in sports. The problems of the method of lecture assessment and the tasks were discussed.

Key words : FD (Faculty Development), lecture assessment

1. 目的

授業改善を目的に開学の2003年度から学生による授業評価アンケートに取り組み、2005年度後期から全学的な運用を開始した。2007年度前期は、学長主導のもと授業評価を含めたFD (Faculty Development) の全学的な実施体制の強化が図られ、それまでのワーキング・グループを統合して新たにFD委員会が設置された。2009年度前期後期に本学学生を対象として実施された授業評価アンケートの結果が、2010年教員研修会で、FDのあり方も含めて検討された。

本稿の目的は、分析発表された評価について、再度見直して、教員の授業改善の努力の結果を資料的価値として残すことである。それは、今後の教育の質保証の改善につながると考えられる。

2. 方法と前回の調査結果の概要

1) 調査票

調査票は講義科目用と実技科目用ともに教示文、評定項目、自由記述からなる。回答の記入は別紙のマークシートに行う。回答は無記名とした。

評定項目は、講義・実技共通の質問項目として、8項目：Q1. 授業の課題の難易度、Q2. 授業の進む速さの適切さ、Q3. 授業の扱った内容の適切さ、Q4. 教員の説明のわかりやすさ、Q5. 教員の熱意・意欲、Q6. 学生の授業への意欲、Q7. 学んだことの有意義度、Q8. 授業の満足度を含めた。さらに追加の項目として、講義科目と実技課目のそれぞれに6項目を加えた：【講義】Q9. 理解の深まり状況、Q10. 知識や技能の習得、Q11. 板書・資料の役立ち、Q12. 受講生の人数の適切さ、Q13. 授業の雰囲気・秩序、Q14. 授業の進め方の工夫、【実技】Q15. 運動への理解の深まり、Q16. 運動技能の向上、Q17. 安全面の配慮、Q18. 施設や用具の整備、Q19. 活動場面の確保、Q20. 教員の助言であった。共通項目と併せ

て、講義・実技科目を含めると合計14項目であった。

講義科目用は14項目、実技科目用は14項目からなる(表1)。回答はいずれも「まったくあてはまらない(1)」から「とてもあてはまる(4)」までの4段階評定とした。

自由記述は、講義・実技ともに、マークシートの裏面を利用して、授業についての感想や意見、改善点を自由に記述してもらい、各教員に調査票を返却することで、学生からの自由コメントのフィードバックを行った。

2) 調査時期と手続き

前後期いずれも定期試験前1～3週間以内に、実施日時の決定を各授業担当教員に一任して次の手順で実施した。①実施日の授業までに教務課で調査票一式の入った封筒を受領する。②授業時間内に10分程度の時間を割り、教示の後、調査票と回答用マークシートを配布して学生に記入させる。③終了後、評価票と回答用マークシートを回収し、封筒に厳封して教務課に提出する。④アンケートの記入および③アンケートの回収については、調査の過程において教員が学生の回答に影響しないように、履修者の中から代表者(ボランティア)を1名選出し、配布から回収までを学生に管理してもらった。

3) 質問項目の変遷と前回解析結果の要点

ア) 質問項目の変遷

前回(2008年報告)の結果、質問項目が「教員の努力」、「授業内容の理解」、「学生の学習意欲」という3つの側面(因子)に要約できることが確認できたが、最終的には目的変数である「満足度」に強く影響することが明らかになった。そこで、質問項目を因子分析の結果に基づき重なりを避け、整理した。

イ) 前回(2008年度)解析結果の要点

第一に、アンケートでは授業内容、教室環境、教員の資質、学生の特性などに関して決して十分な要因を特定し切れていないため、

授業のどのような側面が「満足度」の向上に寄与するかといった分析的な検討を行うには再考の余地を残した。例えば、授業の事前準備の観点から、本学学生の「自学自習」が著しく低い水準にあることは、授業満足度にマイナスの影響を及ぼしている可能性がある。授業評価アンケートでは事前準備などの授業外の要因を含めていないことから、それらを今後含めるかどうかは慎重に検討する必要がある。一方で、「内容への興味」「探求意欲」等の項目が良好な水準を維持していることから、こうした学習意欲を実際の行動へと移行させるための指導・援助が、講義科目全般の課題といえる。その際、クラブ活動への傾倒など、本学学生の特性を踏まえての工夫が望まれる。

第二に、科目ごとの「満足度」の分布を履修人数別に比較した結果、各セメスターともに履修人数が100人を超えるあたりから「満足度」の低い科目が増えはじめ、150人以上を超えると悪化することが明らかになった。時間割編成、教員数、教室数等の制約の中、すべての授業を100人以内にするには困難であるが、少なくとも、150人以上の授業は極力減らす努力をすべきであり、どうしても多人数を対象に講義せざるを得ない場合は、授業満足度に規定力のある前提要因に注意しながら授業改善に努めるべきだろう。

第三に、「学部共通」、「コース専門」の「満足度」は高く、「教養」、「学科共通」、「教職」は低い。個々の教員の努力のみに一任するのではなく、両学科、教職課程といった組織単位での原因究明と立て直しを図るべきである。

第四に、実技科目については、全項目ともに高い評価で、専門性の高い教員によって、スポーツ大学の学生の特性やニーズに適合した授業が実践されていることが明らかになった。ただし、本調査は学生の授業評価と満足度の関係を一次元的に捉えている面があり、今後、新たな要因を加え、学生の特性別の分析を進めるなどして、潜在的な問題の発見の

ための改善が必要である。

第五に、今後は、授業評価の結果を授業改善にどのように活かしていくが課題である。現在まで外部講師による講演会を中心に実施してきたが、すでに多くの大学で実施されているように、教員相互の授業参観や、授業方法についての研究会等を推進していくべきであろう。

以上が現在までの授業評価に関するFD委員会の解析結果の要点である。2008年度の結果と課題を踏まえ、2009年度の授業評価アンケートの分析ではより潜在的な問題を明らかにするため、特に授業の環境的要因(科目種別、コース別、履修者数別、座席指定別、常勤非常勤別、学年別、授業時間別)に基づいて、学生の回答をグループ間で細かく比較検討した。

3. 結果—2009年度びわこ成蹊スポーツ大学授業評価アンケートの分析結果

表1は、2009年度授業アンケートに協力した全対象者の回答結果の平均値を、前期と後期に分けて示している。質問内容については、講義授業と実技授業の共通項目が8項目(Q1~Q8)、講義専門の質問が6項目(Q9~Q14)、実技専門の質問が6項目(Q15~Q20)となっている。各質問が「まったくあてはまらない(1)」から「とてもあてはまる(4)」までの4段階評価尺度で測定されている。それによると、実技専門の項目の評価が、共通項目や講義専門の項目の評価よりも高い傾向にあることが分かる。共通項目および講義専門の項目についても、4段階評価で3.00前後の回答を得ており、全体的に高く評価されている。若干、後期の評価の方が前期の評価よりも高いようであるが、ここで紹介した傾向は前後期で共通しているといえよう。

表2-1、表2-2は、講義授業における学生の人数規模(100人未満と100人以上)を基に比較した結果を示している。前後期ともに、100人未満の講義が、全ての項目において

表1 2009年度授業アンケートの全回答結果（前後期）の平均値

	前期		後期	
	n	平均値	N	平均値
Q1. 授業の課題の難易度	8517	2.96	7153	3.07
Q2. 授業の進む速さの適切さ	8518	3.01	7155	3.12
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	8489	3.13	7138	3.20
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	8499	3.01	7147	3.11
Q5. 教員の熱意・意欲	8507	3.15	7147	3.24
Q6. 学生の授業への意欲	8518	3.11	7146	3.14
Q7. 学んだことの有意義度	8513	3.12	7145	3.17
Q8. 授業の満足度	8507	3.01	7144	3.09
Q9. 理解の深まり状況【講義】	7332	3.02	6528	3.12
Q10. 知識や技能の習得【講義】	7292	3.06	6501	3.16
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	7246	2.94	6474	3.06
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	7239	2.94	6459	3.11
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	7228	2.91	6457	3.09
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	7223	2.94	6435	3.08
Q15. 運動への理解の深まり【実技】	1765	3.41	855	3.39
Q16. 運動技能の向上【実技】	1728	3.38	807	3.39
Q17. 安全面の配慮【実技】	1726	3.41	801	3.44
Q18. 施設や用具の整備【実技】	1724	3.49	798	3.44
Q19. 活動場面の確保【実技】	1719	3.46	799	3.46
Q20. 教員の助言【実技】	1724	3.48	1059	3.49

高い評価を受けている。100人以上の多人数の講義科目のほとんどが卒業必修科目や教職科目であり、どの項目でも低く評価されていることになる。特に、「受講人数の適切さ」「授業の雰囲気・秩序」においては、人数規模の違いによる評価の差が大きく、今後の改善すべき課題である。

表3-1、表3-2は、学部共通教養、学部共通専門、学科科目生涯、学科科目競技、教職科目群の講義科目種別による相違を比較した。全体として、講義科目種別によって評価水準が相違する結果となり、教職科目群が最も低い群になった。前期のQ8. 授業の満足度は、学科科目生涯が3.39、学科科目競技が3.23、学部共通専門が2.98、学部共通教養が2.82、教職科目群が2.77と教職科目群が最も低かった（全体の平均2.93）。質問項目：Q1. 授業の課題の難易度、Q2. 授業の進む速さの適切さ、Q3. 授業の扱った内容の適切さ、Q4.

教員の説明のわかりやすさ、Q5. 教員の熱意・意欲の評価得点の順序も同様であった。このことからこれら課題の難易度、進む速さなどの評価は満足度に関連する要因と考えられ、学生はこれらの評価を基に授業の満足度を評価しているとも考えられる。

後期のQ8. 授業の満足度は、学科科目競技が3.26、学科科目生涯が3.18と学科科目の評価が高く、次いで、学部共通専門が3.04、学部共通教養が2.99、教職科目が2.99の順で、教職科目群の評価が約0.2ポイント上昇したことにより、高い評価の学科科目との差が少なくなり、全体の平均も3.07と約0.1ポイント上昇した。Q5. 教員の熱意・意欲は、全体の平均が3.22で、学部共通専門が3.24、学科科目生涯が3.26、学科科目競技が3.37、教職科目が3.23と教職科目の上昇が認められた一方で、学部共通教養が3.09と最も評価が低かった。教職科目の評価の上昇は他の質問項目でも認

表 2-1 講義を対象とした時の小規模クラスと大規模クラスの比較 (前期)

項目	平均値の比較				F値	有意確率
	全体 (n = 6694)	100人未満 (n = 1759)	100人以上 (n = 4935)	得点差 (少人数-多人数)		
Q1. 授業の課題の難易度	2.90	3.03	2.85	0.18	60.60	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	2.95	3.07	2.90	0.17	59.31	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.08	3.22	3.02	0.20	81.84	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	2.92	3.10	2.85	0.25	107.16	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.07	3.26	3.01	0.25	125.79	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.02	3.22	2.94	0.28	153.48	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.05	3.25	2.98	0.27	136.19	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	2.93	3.13	2.85	0.28	128.83	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.00	3.16	2.94	0.22	98.06	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.05	3.24	2.98	0.26	130.81	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	2.94	3.10	2.88	0.22	94.09	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	2.93	3.26	2.82	0.44	391.53	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	2.90	3.26	2.78	0.48	397.36	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	2.93	3.14	2.86	0.28	139.35	$p < .01$

表 2-2 講義を対象とした時の小規模クラスと大規模クラスの比較 (後期)

項目	平均値の比較				F値	有意確率
	全体 (n = 6251)	100人未満 (n = 2828)	100人以上 (n = 3423)	得点差 (少人数-多人数)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.05	3.17	2.95	0.22	125.48	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.11	3.20	3.03	0.17	76.50	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.19	3.30	3.10	0.20	112.38	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.09	3.25	2.95	0.30	196.15	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.22	3.37	3.11	0.26	176.95	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.11	3.26	2.98	0.28	209.88	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.16	3.29	3.05	0.24	154.81	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.07	3.22	2.94	0.28	174.21	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.13	3.25	3.02	0.23	140.89	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.16	3.29	3.06	0.23	128.78	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	3.07	3.19	2.97	0.22	110.60	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	3.12	3.35	2.93	0.42	494.04	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	3.10	3.31	2.92	0.39	392.86	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	3.09	3.24	2.96	0.28	185.37	$p < .01$

められた。

表 4-1, 表 4-2 は, 座席指定の「ある」授業と「ない」授業で比較した結果を示している。前後期ともに, 座席指定の「ない」授業が, 全ての項目において高い評価を受けている。その一つの原因として, 座席指定の講義の多くが教職科目や卒業必修科目等であり,

受講人数の規模が大きいことが考えられる。

ここでの考察は, 座席指定と併せて, 学生の人数規模との関連を考慮して進める必要があるだろう。

表 5-1, 表 5-2 は, 常勤教員と非常勤教員の間で, 講義授業の評価を比較した結果である。「受講生の人数の適切さ」に関する項

表3-1 講義授業の科目種類別の比較 (前期)

項目	平均値の比較						F値	有意確率
	全体 (n=6694)	学部共通 教養 (n=1400)	学部共通 専門 (n=1950)	学科科目 生涯 (n=752)	学科科目 競技 (n=752)	教職科目 (n=2262)		
Q1. 授業の課題の難易度	2.90	2.83	2.89	3.34	3.09	2.82	44.60	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	2.95	2.86	2.95	3.39	3.22	2.84	62.96	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.08	3.00	3.13	3.46	3.27	2.96	50.34	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	2.92	2.79	3.00	3.40	3.22	2.75	78.15	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.07	2.92	3.12	3.47	3.37	2.98	67.45	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.02	2.91	3.05	3.41	3.30	2.90	61.83	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.05	2.95	3.11	3.49	3.32	2.91	71.60	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	2.93	2.82	2.98	3.39	3.23	2.77	72.70	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.00	2.89	3.06	3.42	3.23	2.88	61.06	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.05	2.97	3.12	3.45	3.25	2.91	58.51	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	2.94	2.86	3.00	3.31	3.20	2.79	57.43	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	2.93	2.89	2.89	3.48	3.27	2.80	84.94	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	2.90	2.75	2.96	3.40	3.36	2.73	117.03	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	2.93	2.81	2.97	3.37	3.29	2.80	82.27	$p < .01$

表3-2 講義授業の科目種類別の比較 (後期)

項目	平均値の比較						F値	有意確率
	全体 (n=6251)	学部共通 教養 (n=1528)	学部共通 専門 (n=2026)	学科科目 生涯 (n=605)	学科科目 競技 (n=1042)	教職科目 (n=1050)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.05	2.95	3.01	3.24	3.17	3.08	24.35	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.11	3.04	3.08	3.20	3.23	3.07	12.81	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.19	3.10	3.16	3.28	3.34	3.19	19.93	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.09	2.99	3.08	3.17	3.25	3.05	16.51	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.22	3.09	3.24	3.26	3.37	3.23	21.41	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.11	3.04	3.08	3.20	3.30	3.02	24.18	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.16	3.05	3.16	3.24	3.33	3.10	24.12	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.07	2.99	3.04	3.18	3.26	2.99	22.41	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.13	3.02	3.10	3.27	3.29	3.08	25.49	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.16	3.05	3.18	3.25	3.31	3.10	21.86	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	3.07	2.97	3.05	3.10	3.23	3.05	17.25	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	3.12	3.16	3.04	3.17	3.28	3.03	22.28	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	3.10	3.06	3.07	3.15	3.34	2.93	38.36	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	3.09	3.02	3.06	3.14	3.26	3.02	18.68	$p < .01$

目を除き、全項目において常勤教員の講義の評価の方が、非常勤教員の講義の評価よりも高く、その傾向は前期と後期において共通して見られた。特に得点に開きのあった項目は、「Q1. 授業の課題の難易度 (前後期)」,

「Q2. 授業の進む速さの適切さ (前期)」, 「Q5. 教員の熱意・意欲 (前後期)」, 「Q7. 学んだことの有意義度 (前期)」, 「Q8. 授業の満足度 (前期)」, 「Q9. 理解の深まり状況 (前期)」, 「Q13. 授業の雰囲気・秩序 (前期)」であり、

表 4-1 座席指定の「ある」授業と「ない」授業の比較（前期）

項目	平均値の比較				F値	有意確率
	全体 (n=6694)	座席指定あり (n=1891)	座席指定なし (n=4803)	得点差 (なし-あり)		
Q1. 授業の課題の難易度	2.90	2.78	2.95	0.17	58.59	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	2.95	2.80	3.00	0.20	82.27	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.08	2.99	3.11	0.12	29.84	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	2.92	2.78	2.97	0.19	62.69	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.07	2.95	3.12	0.17	61.77	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.02	2.94	3.05	0.11	24.75	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.05	2.98	3.08	0.10	18.86	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	2.93	2.79	2.98	0.19	61.95	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.00	2.94	3.03	0.09	16.97	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.05	2.99	3.07	0.08	11.57	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	2.94	2.83	2.98	0.15	38.34	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	2.93	2.83	2.97	0.14	39.72	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	2.90	2.82	2.94	0.12	23.72	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	2.93	2.81	2.98	0.17	55.06	$p < .01$

表 4-2 座席指定の「ある」授業と「ない」授業の比較（後期）

項目	平均値の比較				F値	有意確率
	全体 (n=6251)	座席指定あり (n=2235)	座席指定なし (n=4016)	得点差 (なし-あり)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.05	2.83	3.18	0.35	310.21	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.11	2.89	3.23	0.34	292.23	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.19	2.98	3.31	0.33	293.88	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.09	2.81	3.24	0.43	394.08	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.22	2.98	3.36	0.38	354.77	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.11	2.88	3.23	0.35	305.78	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.16	2.94	3.28	0.34	286.73	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.07	2.80	3.22	0.42	363.13	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.13	2.91	3.25	0.34	270.99	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.16	2.97	3.27	0.30	214.69	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	3.07	2.85	3.19	0.34	254.26	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	3.12	2.89	3.25	0.36	305.61	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	3.10	2.93	3.09	0.26	165.74	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	3.09	2.84	3.22	0.38	338.02	$p < .01$

非常勤教員が授業内容（難易度、有意義度、満足度）だけでなく、プレゼンテーション（熱意や意欲）や授業環境づくり（雰囲気や秩序）の面で、常勤教員よりも苦勞しているものと考えられる。

講義科目と実技科目の比較を表 6-1（前期）、表 6-2（後期）に示した。すべての項

目において、前期も後期も実技が講義に比べて高い評価を受けている。講義と実技の得点差を前期と後期で比較すると、前期の方が後期よりも得点差の開きが大きい項目がある。前期は「教員の説明のわかりやすさ」で得点差（0.53）が最も大きく、一方で「授業の扱った内容の適切さ（0.34）」については得点差

表5-1 常勤教員と非常勤教員の授業の比較（前期）

項目	平均値の比較				F値	有意確率
	全体 (n=6694)	常勤教員 (n=5112)	非常勤教員 (n=1582)	得点差 (常勤-非常勤)		
Q1. 授業の課題の難易度	2.90	2.94	2.78	0.16	45.54	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	2.95	2.99	2.82	0.17	54.70	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.08	3.11	2.98	0.13	28.03	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	2.92	2.95	2.81	0.14	27.48	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.07	3.11	2.96	0.15	37.99	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.02	3.04	2.93	0.11	25.00	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.05	3.09	2.94	0.15	40.08	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	2.93	2.96	2.81	0.15	35.70	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.00	3.04	2.89	0.15	42.13	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.05	3.08	2.95	0.13	30.47	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	2.94	2.96	2.84	0.12	23.66	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	2.93	2.93	2.93	0.00	0.01	n.s.
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	2.90	2.94	2.78	0.16	43.47	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	2.93	2.97	2.83	0.14	30.81	$p < .01$

表5-2 常勤教員と非常勤教員の授業の比較（後期）

項目	平均値の比較				F値	有意確率
	全体 (n=6251)	常勤教員 (n=4271)	非常勤教員 (n=1980)	得点差 (常勤-非常勤)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.05	3.10	2.94	0.16	58.61	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.11	3.15	3.02	0.13	37.58	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.19	3.22	3.12	0.10	27.99	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.09	3.12	3.01	0.11	23.62	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.22	3.28	3.11	0.17	59.92	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.11	3.14	3.03	0.11	25.48	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.16	3.19	3.08	0.11	26.54	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.07	3.11	2.98	0.13	31.94	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.13	3.16	3.05	0.11	27.85	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.16	3.21	3.07	0.14	41.20	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	3.07	3.10	3.00	0.10	18.04	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	3.12	3.12	3.11	0.01	0.17	n.s.
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	3.10	3.13	3.03	0.10	21.03	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	3.09	3.12	3.01	0.11	25.14	$p < .01$

が小さかった。後期は「学生の授業への意欲(0.38)」において得点差が最も大きい結果となったが、「授業の扱った内容の適切さ(0.23)」ではあまり得点に開きがなかった。教室で座って授業に集中する講義型の科目よりも、身体を動かし、スポーツを通して学ぶ実技型の授業に評価が高いという結果は、教

員の説明のわかりやすさ、学生の授業への意欲の差の結果として表現されている。

表7-1、表7-2は、講義授業を学年別に比較した結果を示している。全体的に1年生と2年生の数値が、3年生と4年生の数値よりも低い。この傾向は、前期と後期を通じて共通しており、教養科目、基礎科目を中心に

表 6-1 講義科目と実技科目の比較（前期）

項目	平均値の比較				F値	有意確率
	全体 (n=8390)	講義 (n=6781)	実技 (n=1609)	得点差 (実技-講義)		
Q1. 授業の課題の難易度	2.97	2.90	3.27	0.37	280.33	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.01	2.94	3.32	0.38	286.91	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.14	3.07	3.41	0.34	244.90	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.01	2.91	3.44	0.53	480.58	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.16	3.07	3.53	0.46	425.29	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.11	3.01	3.53	0.52	548.69	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.13	3.05	3.46	0.41	343.86	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.02	2.92	3.41	0.49	414.65	$p < .01$

講義と実技の共通項目のみ

表 6-2 講義科目と実技科目の比較（後期）

項目	平均値の比較				F値	有意確率
	全体 (n=7063)	講義 (n=6353)	実技 (n=710)	得点差 (実技-講義)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.08	3.05	3.34	0.29	87.22	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.13	3.10	3.35	0.25	68.72	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.21	3.19	3.42	0.23	60.06	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.12	3.08	3.43	0.35	111.34	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.24	3.22	3.47	0.25	70.41	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.14	3.11	3.49	0.38	155.95	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.18	3.15	3.42	0.27	75.11	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.10	3.06	3.40	0.34	105.73	$p < .01$

講義と実技の共通項目のみ

履修している1年生や2年生よりも、専門科目やゼミ活動に集中する上級生の方が、授業に対する評価が高いことを示唆する。併せて、1・2年次の講義は多人数の大講義が多い一方で、3・4年生は少人数のゼミやコースの専門科目が多いことも、学年別の得点差の原因として考えられるだろう。

表8-1、表8-2は、学年別に実技科目を評価した結果を比較したものである。結果から、前期「Q1. 授業の難易度」の4年生以外のすべての項目において1年生が上級生（2年生以上）に比べ評価が低くなっている。これは、1年生に配当されている実技科目がすべて必修科目であり、上級生以上は選択科目になっていることが原因と考えられる。ま

た、評価の低い1年生は、前期に比べ後期科目の評価がやや高くなっている。これは、大学入学から半年が経過し、大学生活のペースや授業に慣れてきたことが原因のひとつと考えられる。

表9-1、表9-2は、授業時間別に、講義の評価結果を比較したものである。前期の結果よると、「Q2. 授業の進む速さの適切さ」および「Q12. 受講生の人数の適切さ」を除くすべての項目において、授業時間別の回答結果には有意な差が確認された。具体的には、午前中の授業の評価が、午後の授業の評価に比べて低い傾向にあり、特に2時間目の評価が低いようである。後期のアンケート結果に関しては、すべての項目において有意な差が確認

表7-1 講義授業の学年別の比較（前期）

項目	平均値の比較						F値	有意確率
	全体 (n=6385)	1年生 (n=1019)	2年生 (n=3108)	3年生 (n=1859)	4年生 (n=376)	その他 (n=23)		
Q1. 授業の課題の難易度	2.90	2.66	2.85	3.05	3.17	3.04	54.89	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	2.94	2.68	2.90	3.10	3.26	3.09	64.69	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.08	2.96	3.02	3.19	3.34	3.48	31.08	$p < .05$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	2.92	2.72	2.87	3.05	3.22	3.26	36.82	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.08	2.93	3.01	3.22	3.35	3.35	38.03	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.02	2.94	2.94	3.14	3.20	3.35	24.08	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.05	2.95	2.98	3.16	3.33	3.43	30.65	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	2.93	2.74	2.88	3.04	3.23	3.30	34.82	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.00	2.84	2.96	3.11	3.25	3.17	29.39	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.05	2.96	3.00	3.13	3.28	3.39	18.51	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	2.94	2.80	2.89	3.04	3.15	3.26	23.30	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	2.93	2.93	2.85	3.02	3.21	2.96	23.19	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	2.91	2.75	2.86	3.00	3.18	3.13	24.88	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	2.93	2.76	2.89	3.05	3.23	3.17	34.45	$p < .01$

表7-2 講義授業の学年別の比較（後期）

項目	平均値の比較						F値	有意確率
	全体 (n=5976)	1年生 (n=1401)	2年生 (n=2425)	3年生 (n=1835)	4年生 (n=300)	その他 (n=15)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.06	2.89	3.00	3.23	3.24	3.67	51.48	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.11	3.00	3.06	3.22	3.34	3.47	29.28	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.19	3.08	3.13	3.32	3.44	3.80	36.51	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.09	3.01	3.01	3.22	3.35	3.73	29.42	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.23	3.15	3.15	3.36	3.46	3.67	30.80	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.11	3.06	3.04	3.22	3.19	3.60	17.90	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.16	3.09	3.09	3.27	3.34	3.87	22.76	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.07	2.94	3.03	3.20	3.27	3.53	27.14	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.13	3.00	3.08	3.25	3.33	3.67	30.02	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.17	3.10	3.11	3.26	3.37	3.53	19.03	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	3.07	2.97	3.00	3.20	3.19	3.60	25.61	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	3.12	3.09	3.04	3.23	3.22	3.47	17.63	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	3.10	3.08	3.05	3.18	3.20	3.07	8.63	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	3.09	3.01	3.03	3.21	3.24	3.60	22.74	$p < .01$

された。後期の結果は、前期の結果とは対照的に、2時間目の評価が他の時限の評価よりも高い結果となった。

表10-1, 表10-2は、授業時間別に、実技の評価結果を比較したものである。結果から前期は配当時間によって差はみられなかった。

一方後期は4時間目の授業の評価が低い傾向がみられた。これは1日の最後の授業で更衣をしてからの実技授業、また後期の寒い気候での実技が低い評価につながった一つの原因だろう。

表 8-1 実技科目の学年別の比較（前期）

項目	平均値の比較					F値	有意確率
	全体 (n=1423)	1年生 (n=957)	2年生 (n=124)	3年生 (n=229)	4年生 (n=111)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.26	3.15	3.56	3.41	3.48	15.01	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.31	3.22	3.60	3.48	3.39	12.28	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.40	3.33	3.66	3.52	3.52	10.41	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.43	3.36	3.73	3.52	3.52	9.90	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.53	3.47	3.73	3.61	3.63	7.42	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.52	3.48	3.73	3.52	3.66	5.80	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.45	3.37	3.74	3.53	3.62	11.70	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.41	3.31	3.75	3.52	3.59	14.77	$p < .01$
Q15. 運動への理解の深まり【実技】	3.45	3.38	3.73	3.54	3.59	11.23	$p < .01$
Q16. 運動技能の向上【実技】	3.41	3.36	3.67	3.47	3.48	6.66	$p < .01$
Q17. 安全面の配慮【実技】	3.42	3.34	3.72	3.58	3.44	12.67	$p < .01$
Q18. 施設や用具の整備【実技】	3.52	3.47	3.72	3.59	3.55	5.66	$p < .01$
Q19. 活動場面の確保【実技】	3.48	3.43	3.69	3.56	3.58	6.68	$p < .01$
Q20. 教員の助言【実技】	3.51	3.44	3.73	3.62	3.57	8.86	$p < .01$

表 8-2 実技科目の学年別の比較（後期）

項目	平均値の比較					F値	有意確率
	全体 (n=622)	1年生 (n=392)	2年生 (n=90)	3年生 (n=108)	4年生 (n=31)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.35	3.33	3.51	3.33	3.19	1.88	n.s.
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.36	3.28	3.54	3.53	3.23	4.89	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.43	3.36	3.53	3.58	3.42	3.14	$p < .05$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.44	3.36	3.53	3.61	3.55	3.71	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.50	3.40	3.64	3.70	3.65	7.49	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.50	3.42	3.64	3.62	3.58	3.93	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.43	3.36	3.54	3.58	3.45	3.13	$p < .05$
Q8. 授業の満足度	3.42	3.34	3.60	3.56	3.52	4.21	$p < .01$
Q15. 運動への理解の深まり【実技】	3.48	3.40	3.62	3.65	3.58	5.17	$p < .01$
Q16. 運動技能の向上【実技】	3.47	3.40	3.57	3.62	3.58	3.69	$p < .01$
Q17. 安全面の配慮【実技】	3.48	3.43	3.59	3.56	3.58	2.34	n.s.
Q18. 施設や用具の整備【実技】	3.49	3.45	3.59	3.54	3.52	1.23	n.s.
Q19. 活動場面の確保【実技】	3.51	3.44	3.60	3.63	3.65	3.22	$p < .05$
Q20. 教員の助言【実技】	3.50	3.43	3.60	3.65	3.68	4.21	$p < .01$

表9-1 講義科目の授業時間別の比較（前期）

項目	平均値の比較					F値	有意確率
	全体 (n=6694)	1時間目 (n=1563)	2時間目 (n=1733)	3時間目 (n=1585)	4時間目 (n=1813)		
Q1. 授業の課題の難易度	2.90	2.83	2.87	2.90	2.98	10.09	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	2.95	2.92	2.92	2.98	2.96	2.45	n.s.
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.08	3.05	3.03	3.09	3.13	4.46	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	2.92	2.89	2.88	2.94	2.96	3.41	$p < .05$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.07	3.08	3.01	3.07	3.14	7.57	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.02	2.96	2.97	3.04	3.08	7.47	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.05	3.01	3.01	3.06	3.12	6.83	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	2.93	2.87	2.87	2.97	2.99	9.14	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.00	2.96	2.96	3.01	3.07	7.85	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.05	3.00	3.01	3.05	3.12	7.44	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	2.94	2.90	2.89	2.97	2.98	4.80	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	2.93	2.97	2.89	2.93	2.95	2.24	n.s.
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	2.90	2.96	2.85	2.92	2.90	4.47	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	2.93	2.90	2.89	2.98	2.96	4.12	$p < .01$

表9-2 講義科目の授業時間別の比較（後期）

項目	平均値の比較					F値	有意確率
	全体 (n=6251)	1時間目 (n=1598)	2時間目 (n=1596)	3時間目 (n=1587)	4時間目 (n=1470)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.05	3.08	3.13	3.01	2.98	11.24	$p < .01$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.11	3.16	3.15	3.07	3.04	9.93	$p < .01$
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.19	3.24	3.26	3.12	3.15	12.69	$p < .01$
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.09	3.17	3.17	3.02	3.00	19.22	$p < .01$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.22	3.29	3.31	3.16	3.12	22.80	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.11	3.17	3.15	3.04	3.06	10.30	$p < .01$
Q7. 学んだことの有意義度	3.16	3.22	3.20	3.10	3.12	9.11	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.07	3.09	3.15	3.01	3.02	10.06	$p < .01$
Q9. 理解の深まり状況【講義】	3.13	3.15	3.17	3.07	3.11	4.48	$p < .01$
Q10. 知識や技能の習得【講義】	3.16	3.18	3.20	3.11	3.16	4.25	$p < .01$
Q11. 板書・資料の役立ち【講義】	3.07	3.08	3.13	3.03	3.03	6.00	$p < .01$
Q12. 受講生の人数の適切さ【講義】	3.12	3.18	3.18	3.06	3.06	11.14	$p < .01$
Q13. 授業の雰囲気・秩序【講義】	3.10	3.18	3.14	3.02	3.04	14.15	$p < .01$
Q14. 授業の進め方の工夫【講義】	3.09	3.12	3.16	3.04	3.02	10.56	$p < .01$

表10-1 実技科目の授業時間別の比較（前期）

項目	平均値の比較					F値	有意確率
	全体 (n=1554)	1時間目 (n=146)	2時間目 (n=357)	3時間目 (n=559)	4時間目 (n=492)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.27	3.30	3.24	3.31	3.24	0.98	n.s.
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.32	3.37	3.27	3.36	3.29	1.64	n.s.
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.41	3.42	3.40	3.45	3.37	1.52	n.s.
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.44	3.50	3.43	3.47	3.40	1.12	n.s.
Q5. 教員の熱意・意欲	3.53	3.55	3.54	3.53	3.50	0.39	n.s.
Q6. 学生の授業への意欲	3.53	3.50	3.51	3.58	3.50	1.54	n.s.
Q7. 学んだことの有意義度	3.46	3.47	3.44	3.50	3.41	1.73	n.s.
Q8. 授業の満足度	3.41	3.41	3.38	3.47	3.37	1.81	n.s.
Q15. 運動への理解の深まり【実技】	3.46	3.47	3.45	3.49	3.43	0.89	n.s.
Q16. 運動技能の向上【実技】	3.42	3.40	3.37	3.46	3.41	1.30	n.s.
Q17. 安全面の配慮【実技】	3.43	3.51	3.36	3.44	3.44	2.07	n.s.
Q18. 施設や用具の整備【実技】	3.52	3.49	3.51	3.59	3.45	4.71	$p < .01$
Q19. 活動場面の確保【実技】	3.49	3.50	3.44	3.55	3.46	2.87	$p < .05$
Q20. 教員の助言【実技】	3.51	3.51	3.47	3.56	3.50	1.68	n.s.

表10-2 実技科目の授業時間別の比較（後期）

項目	平均値の比較					F値	有意確率
	全体 (n=681)	1時間目 (n=52)	2時間目 (n=207)	3時間目 (n=262)	4時間目 (n=160)		
Q1. 授業の課題の難易度	3.35	3.35	3.34	3.43	3.22	2.97	$p < .05$
Q2. 授業の進む速さの適切さ	3.36	3.42	3.40	3.40	3.24	2.21	n.s.
Q3. 授業の扱った内容の適切さ	3.42	3.54	3.43	3.46	3.32	2.08	n.s.
Q4. 教員の説明のわかりやすさ	3.44	3.58	3.48	3.45	3.32	2.66	$p < .05$
Q5. 教員の熱意・意欲	3.49	3.54	3.51	3.55	3.34	3.93	$p < .01$
Q6. 学生の授業への意欲	3.50	3.52	3.56	3.53	3.36	3.24	$p < .05$
Q7. 学んだことの有意義度	3.43	3.52	3.47	3.49	3.26	4.40	$p < .01$
Q8. 授業の満足度	3.41	3.42	3.46	3.45	3.29	2.19	n.s.
Q15. 運動への理解の深まり【実技】	3.48	3.50	3.51	3.54	3.34	3.70	$p < .05$
Q16. 運動技能の向上【実技】	3.46	3.44	3.56	3.48	3.32	4.08	$p < .01$
Q17. 安全面の配慮【実技】	3.49	3.44	3.51	3.53	3.41	1.49	n.s.
Q18. 施設や用具の整備【実技】	3.49	3.42	3.52	3.55	3.36	3.29	$p < .05$
Q19. 活動場面の確保【実技】	3.51	3.50	3.57	3.55	3.36	4.03	$p < .01$
Q20. 教員の助言【実技】	3.50	3.56	3.56	3.51	3.40	2.03	n.s.

4. 考 察

2009年度の授業評価アンケートの分析では、科目種別、授業形態（講義／実技）別、授業時間別、学年別、座席指定別、常勤非常勤別に評価結果を詳しく比較検討したところ、授業満足度を始めとして多く評価項目に差が見られた。以下は、今回の分析結果から明らかになった主な違いである。

- (1) 大規模クラスの授業評価は、小規模クラスの授業評価よりも低い傾向が確認された。
- (2) 学科専門科目（生涯、競技）に比べ、学部共通科目（教養、専門）や教職科目は評価が低い傾向にある。
- (3) 教職科目は、前回の低率群から改善されたものが多かった。これは個々の教員の努力の結果とも考えられる。今後事例を検討して、授業の満足度がさらに向上することを期待したい。
- (4) 座席指定の「ある」授業の方が、座席指定の「ない」授業よりも評価が悪かった。座席指定のある講義は多人数であることが多いことから、履修者数と併せて教室環境の分析を継続的に行っていく必要がある。
- (5) 常勤教員の評価の方が、非常勤教員の評価よりも全体的に高い結果となった。授業環境の管理や学生との関係づくりなどの面で、非常勤教員の支援の必要性を示唆する結果であろう。
- (6) 共通項目のみの比較ではあるが、実技科目の方が講義科目よりも高く評価される傾向が見られた。スポーツ大学の本学学生と実技授業との相性の良さを知ることができる。
- (7) 学年別の比較では、1年生と2年生の授業評価が低かった。これに対しては、さまざまな要因が考えられようが、結果を真摯に受け止める必要がある。教養科目の新設や教員の増員も含めた検討を視野に入れる必要があるものと考えられる。

最後に、アンケート調査の実施上の課題について述べたい。質問項目は学生が理解し易い表現に心がけるとともに重複する項目については因子分析によって精査することで、アンケート対象者の学生自身が授業に対して持っている感想や満足度を反映しているものと考えられる。調査項目は、主に授業の(1)内容的要因、(2)環境的要因、(3)教員の資質に関する要因から構成されており、「授業時間内」の質問に限られている。これらの質問は、授業時間を超えて、1学期間を通しての授業の到達度評価には、残念ながら至っていない。教員の授業目標に対して、学生の取り組みがどれくらいであったという評価が含められていないことになる。学生自身がどれほど自習したのか（何時間勉強したのか）、シラバスの目標の達成に向けて何をどれくらい学んだのか（知識、思考、行動）について、必ずしも十分な結果を提供できる質問項目ではない。また、質問紙は、断片的な調査の結果であって、授業に対する形成的な結果になっていない点にも注意が必要だろう。授業の前半の結果を受けて、教員においては授業方法、学生においては学習態度を改善するような評価の導入が必要になるものと考えられる。

今後は、教員と学生が相互に積極的に授業に関与する授業環境を適切に評価するための授業アンケートとなるように、継続的に質問項目の検討を進めるとともに、アンケートの回収方法についても十分な注意を払っていく必要がある。特に、講義種別やコース別に比較検討する際に、回収率に著しい差がある場合には、それらの結果は特定の教員の授業評価に寄るものとなってしまう、本当の意味でグループ間の比較とならない。さらに、学生の無記名アンケートの方法論の妥当性の検討が必要である。

最後に体育・スポーツ学の援用力（ジェネリックスキル）の形成の視点からの授業評価が必要である。教育の質保証委員会報告(2011)¹⁾によると、体育・スポーツ学の援用

力は、①広範な知識と複眼的思考力、②マネジメント力、③危機管理能力、④言語および非言語コミュニケーション力、⑤観察学習力であるとされ、その到達度評価の必要性が生じる。現在のアンケートによる評価は、学習態度に関するものであって、授業の系統性や必要単位を取得した後のジェネリックスキルの形成の視点からの評価作成が必要である。
*本稿は、2009-2010年度FD委員会の報告を

もとにしており、数値解析は、主として吉田が担当した。発表者順は等値である。

参考文献

- 1) 全国体育系大学学長・学部長会教育の質保証委員会（2011）体育・スポーツ学分野における教育の質保証— 参照基準と教育関連調査結果—。

